



CHAPTER 1

概要

Cisco Data Center Network Manager (DCNM) は、IP アドレッシング、オブジェクト トラッキング、およびゲートウェイ ロード バランシング プロトコル (GLBP) をサポートします。

この章の内容は、次のとおりです。

- 「IPv4 and IPv6」 (P.1-1)
- 「ファーストホップ冗長プロトコル」 (P.1-1)
- 「オブジェクト トラッキング」 (P.1-1)

IPv4 and IPv6

レイヤ 3 は、IPv4 プロトコルまたは IPv6 プロトコルを使用します。IPv6 は新しい IP プロトコルで、世界中で広く展開され、使用されているインターネット プロトコルである IPv4 に代わるものとして設計されました。IPv6 では、ネットワーク アドレス ビット数が 32 ビット (IPv4 の場合) から 128 ビットに増やされています。詳細については、第 2 章「IPv4 の設定」または第 3 章「IPv6 の設定」を参照してください。

ファーストホップ冗長プロトコル

ファーストホップ冗長プロトコルを使用すると、ホストで冗長接続が可能となります。アクティブなファーストホップ ルータがダウンした場合は、その機能を引き継ぐスタンバイ ルータが、FHRP により自動的に選択されます。アドレスは仮想のものであり、FHRP グループ内の各ルータ間で共有されているため、ホストを新しい IP アドレスで更新する必要はありません。ゲートウェイ ロード バランシング プロトコル (GLBP) の詳細については、第 4 章「GLBP の設定」を参照してください。ホットスタンバイ ルータ プロトコル (HSRP) の詳細については、第 5 章「HSRP の設定」を参照してください。

オブジェクト トラッキング

オブジェクト トラッキングを使用すると、インターフェイス ライン プロトコル ステート、IP ルーティング、ルート到達可能性などの、デバイス上の特定のオブジェクトをトラッキングし、トラッキング対象オブジェクトのステートが変化したときに対処できます。この機能により、ネットワークのオペラビリティが向上し、オブジェクトがダウンした場合のリカバリ時間が短縮されます。詳細については、第 6 章「オブジェクト トラッキングの設定」を参照してください。

